

令和4年度 第56回 中学生の「税についての作文」
まちだ納税貯蓄組合連合会優秀賞

「コロナという絶望から希望の税」 町田市立町田第二中学校 3学年 前田 胡桃

「もう明日から学校はありません。次くるのは卒業式です。」先生からの言葉にとても驚き、コロナの深刻さを実感した六年生の卒業間近のこと。生活は今までと大きくかわっていった。なんとか縮小して証書を受け取るだけの卒業式ができた。中学校の入学式も縮小されマスクのまま点呼され、先生や友達のマスクをした顔しかわからず怖かった。学校行事が縮小されたり、コロナに感染して死亡したというニュースを見て、とても恐ろしかった。日々感染対策をしていて、ワクチンも開発中と知り、早くワクチン接種をしたいと思っていた。やつと接種ができるようになり私は母に「お金が高くてもワクチンをうちたい。」と話した。そしたら母は国が払ってくれるから心配ないと言った。私は無料でワクチンをうち少し心が軽くなった。みんなが納めている税金がワクチンの開発、接種を行ってくれると知った。そんな中、私の妹がコロナの濃厚接触者となってしまった。身近にコロナがせまってきて、恐怖を感じた。妹はまだワクチンを打てる年齢ではなく未接種だった。私の心配通り妹はコロナの陽性者となった。健康観察期間が与えられ「えっ」という絶望感を感じた。学校や部活にも行けず外にも出れずに食料はどうなるのか不安だった。すると母は「東京都から支援物資が届くから安心して。」と言った。ついに段ボール三箱が届き開けてみるとめいいっぱいにつまった食料がたくさんあった。これも税金が使われている。コロナでホテル療養をしている人のホテル代やPCR検査も税金が使われている。妹の医療費も健康保険という税金が使われ、負担なく医療を受けられると母が教えてくれた。両親をはじめ、大人が税金をきちんと納めてくれているからこんなにも充実した支援が受けられるのだ。自宅で妹が療養中、これをきっかけに税金って他になにに使われているのかの話になった。私の通う中学校、毎日通る通学路の信号やガードレールなどにも使われ、全てに税金が使われていると分かった。大人たちがきちんと税金を納めてくれるから私は不自由なく、むしろとても幸せな生活を送れているんだと感じた。妹もコロナの療養が終わり家族が日常生活に戻った時、健康であることの大切さを実感した。毎日通う学校も通学路もあたり前だったのに、なんだか輝いてみえた。税金が健康も守ってくれて、安全な街で学校生活を充実させてくれると実感したからかもしれない。税金ってすばらしいんだ。

私が大人になったら、立派な納税者になり助けられてきた分の恩返しをして、日本をよりよく安心安全で希望の満ちあふれる国にしたい。